

## 8

## 一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 6 月 11 日(月)

□相談年度:平成 23 年度

## ■新宿公園で死にきれず相談にきた女性■

### ～息子に年金と住まいを奪われ行き場を失う～

わが息子の非道さに、本気で死のうとした相談者。問題解決の要となる役所の態度を一喝。問題はスピード解決を見た。「たった一人を救う」は、たった一つの生命力を引き出すということだと思ふ。

- 仮名：木内さん
- 年齢：73歳
- 性別：女性
- 問題：自殺問題

#### 【役所に取り合ってもらえず「死」を覚悟】

住まいも金もなく、所持金わずか277円だけで飛び込んできた相談者がいる。東京近郊在住の女性、木内さん。木内さんは息子に年金の通帳を奪い取られて、さらに家まで取られて追い出された。役所に相談に行ったら「それは親子の問題でしょ」と取り合ってくれない。行くところもなく、「死んでしまおう」と思い、ワンカップとカミソリ、睡眠薬、ロープを持って新宿公園へ行った。だがどうしても死にきれず、翌日、「駆け込み寺の玄さんという人がいた」と思い出し、山手線に乗って私のところへやって来たのだ。

#### 【安易な行政とやり合うことも】

とにかく話を聞いた。まず年金というのは木内さん本人のものであり、住まいの借家は木内さんの名義。完全に息子が悪い。すぐに木内さんの住まいがある市の福祉課に電話をした。「実にこうこうで、息子の虐待で飛び出したおばあちゃんがいる。死にかけてる」と、その担当職員が開口一番なんと言ったかという、「それ、認知症の徘徊じゃないですか？」余りにも軽んじたことを話すから私はキレた。

「あなたのお名前は？」と聞いたら、相手は「福祉課の〇〇です」と答えたので、こちらも自己紹介。「日本駆け込み寺の玄と言います。で、実はこうこうで」と話しをした。それからじっくり戦闘開始だ。もちろん私はその会話を全部メモっていた。それでも相手は「まあ、そんなこと言っても、高齢で何とかかんとか・・・」と言ってくるから「おい、ちょっと待て」となった。その時はもう夕方4時30分すぎで、福祉課の窓口は、5時00分で終わりだ。

「今晚、私のところで木内さんを一晚預かる。明日9時にきっちりあなたの窓口に連れていくから、ちゃんと役所として面倒をみる！」さらにまくし立てた。「最後までやってくれよ。おばあちゃんをどこか施設に入れろ。虐待で入れるはずだろう。それがあなたの仕事だからな。ちゃんとやってくれなかったらあなたの課長のところまでいくよ。なんなら市長を呼び出すよ」ケンカじゃないけれど、人を救うためだったら私は手段を選ばない。私は、何も非合法なことはしていない。すべて合法だ。こちらは間違ったことはしていない。行政はサービス。だから福祉課に「あんたら、顧客の税金によって雇われているのだから、あんたらのボスっていわゆる市民だよ。だから私は目いっぱい発言権がある。こっちはあんたらに仕事与えているのだから、職務怠慢せずにちゃんとやれ。でないと、あなたの首飛ぶよ。飛ばしてやろうか」と言った。「ましてやおたくのところの市民だよ。上司に行くよ。私は行くなって言ったら本当に行くよ。駆け込み寺の玄だからね」私はちゃんと名乗って嘯みつく。「そうになったら、あとでおたくが大変だよ。私は損得ゼロだけど、あんたらは大変だよ」と怒鳴りつけた。

#### 【役所が動いて木内さんは無事施設へ】

当時、うちにはDVの被害者シェルターがあったから木内さんをそこに泊ませた。リュックサックの中を見たら、ワンカップと睡眠薬、カミソリ、2メートルぐらいのロープが入っていた。これで死のうと思っていたのだろう。「これはもう、木内さんにはほらないよね」って言って全部処分した。木内さんは風呂に入ったらちょっとホッとしたみたいだった。翌日9時に、福祉課が最寄りの駅まで迎えに来た。向こうも私のことを調べ、日本駆け込み寺のホームページを見て「ああ、ちょっと困ったな、これはやらなきゃいけない」と思ったらいい。その日の昼には、役所がアパートに立ち入りをした。職員が部屋にいくと息子は酒を飲んでいたという。そこから通帳と印鑑と荷物を全部持ち出し、施設に入る準備をする。木内さんは持病があったから医療費は免除になる。

木内さんがどこに行ったかということはその息子に一切知らせない。「借家は解約して何とか施設に入れました。年金で施設費は払えます。足りない分は生活保護を出します」後日、このように福祉課からちゃんと事後報告があった。



世界文化遺産の中尊寺にて講演。その後の記念写真。

#### 【ここが POINT】 .....

ひとりの人間が動いたら組織は動く。たったひとりでも動きだすと、そこから組織は動くのだ。みんなは「公務員はどうしようもない・・・」と言うが、言っているだけでは解決しない。私だったらその組織の中に風穴をあけて、かきまわす。つまり、ひとりターゲットにして揺さぶって、その人を動かす。そうしたら組織は必ず動く。組織はそういうものだ。

それにしても、行政には「人をもてあそぶな」と言いたい。このときの福祉課の人間は、年齢で判断しようとした。たとえば、世間の大半の人間にしても「90歳だから老い先が短い」とか平気で言う。私はそれが何だと言いたい。では、4歳だったら助けて、90歳だと助けられないのか？私はそのことを絶対に認めない。